はじめに

大学に押し寄せた改革の波は，21世紀を迎えて，さらに大きく，激しくなろうとしています。この荒波の中でどのように進んでいくべきか，保健管理センターはまことに小さな組織ですが検討をせまられています。大学の本来の使命は教育と研究です。大学改革に当たっては，その主眼が「学生を主体とする，学生のための」大学に置かれ，どのような学生を育てるのか，どのように教育するのか，研究はどうあるべきかなどが問われています。魅力ある大学を目指す中で，保健管理センターの担う「健康」は，すべての教育研究活動の基盤になるものです。精神疾患で休・退学になる学生や登校拒否の学生が問題になっていますが，一方，新入生の2割を占める生活習慣病予備軍としての異常所見を示す学生や在学中のライフスタイルの乱れなどを総括すると，健康教育がすべての教育研究の基礎としていかに重要であるかを実感させられます。自分の健康について考えることは，即，人生をいかに生きるかを考えることであり，その意味でも健康教育はすべての教育の基盤であると言えます。そして，これを担うのは保健管理センターを措いてはないと認識しています。もちろん保健管理センターがひとりこれを担うことは不可能です。全学の協力があって初めて実現できることです。また，これからの健康教育は知識の教授のみでは達成は難しく，健康なライフスタイルを実現出来る環境の確立が肝要です。これまで保健管理センターは厚生補導の施設として位置づけられて来ましたが，単に健康診断と保健のための厚生施設ではなく教育研究施設として機能し，さらに，快適な学園生活と適切なライフスタイルを実現できる福利厚生施設の充実であってこそ，健康教育は実を結ぶことが出来ると信じています。豊かなコミュニケーションが広がる環境と，運動と食環境の充実こそこれからの魅力ある大学の重要な要素であると思います。

本学について考えると，健康教育の礎は出来つつあると思われますが，14年度からのカリキュラムの改変にむけてさらに充実したものになることを願っています。ただ，環境に関してはこれからというところでしょう。教育研究機能を充実した保健施設と一体となったアスレチック広場，プール，皆が集えるコミュニケーションとくつろぎの広場，気軽に相談出来る相談室などが設けられ，理想的な食事が手軽にとれる食堂と，豊かな緑のある魅力ある大学になることを期待しています。

平成13年2月

長崎大学保健管理センター
所長　石井伸子